

---

# 新たなTC人生

---

医療法人翼翔会 安岡デンタルオフィス

岡村 遥

はじめに 「TC との出会い」

私が TC という仕事に出会ったのは約 8 年前。

前に勤めていた医院で歯科助手として勤務をはじめて 6 ヶ月ほどたった時のことでした。

当時の院長に急に呼び出され「〇〇さんが辞めるから岡村さん次 TC やって」と一言。

新米の私は院長に嫌われるのではないかと思ひ断る勇気もなく渋々「、、はい。」と返事をしました。

これが私の第一の DA 兼 TC 人生のスタートです。

今思えば恥ずかしい限りですがその当時は「院長の代わりに院長から指示された説明をして、できるだけ患者様を自費に誘導する仕事」という認識でした。

そんな私のカウンセリングと呼んでいいのかも分からないような低レベルなカウンセリングでも患者様が「丁寧に説明してくれてありがとう」「先生には怒られんのが怖くて聞にくいことも聞けて安心した」と言って下さることもありこの仕事にやりがいと希望を感じ始めたことは記憶に新しいです。

さらに TC として活躍したい、幅広い治療で常に最新の技術を提供している医院で学びを深めたいと考え今勤務している医院の門を叩きました。

理事長が TC という職種の可能性を大きく感じてくれていたこともあり入社 6 ヶ月後には夢の TC 専任として私の第二の TC 人生が始まりました。

その後、日々楽しく TC として働いていましたが、

どことなく自分の成長が頭打ちになってきている、、

後輩 TC の育成の方法もこれで合っているのかわからない、、

と不安と限界を感じ初めていました。

そしてそんな自分から脱却すべく藁をもすがる思いで今回 TC マスターカレッジを受講させていただきました。

講義は TC という仕事に慣れ始めてしまっていた私にぐさぐさと刺さる刺激だらけの内容で、TC としてデビューした時の希望に溢れた自分に戻れた気持ちです。

そんな第 3 の TC 人生に希望いっぱいの私が

日本の歯科医療における TC の役割

TC スクールを受講して今後の私に何が出来るか

理想の TC 像

について以下述べさせていただきます。

## 第1章 日本の歯科医療におけるTCの役割

私の考えるこれからの日本の歯科医療におけるTCの役割は

「老いなき世界の創造に貢献すること」です。

私の勤務する医療法人翼翔会は企業のミッションに「老いなき世界の創造」を掲げています。

今の日本は長寿国ではありますが平均寿命と健康寿命に約10歳の差があると言われています。

そのため介護士不足や老老介護、医療費の増加など沢山の問題を抱えています。

私の祖母も全身疾患や認知症により栄養は点滴から、家族のこともわからず、元気なまま最期を迎えることはできず私自身もとても寂しい思いをしました。そしてそんな祖母も総入れ歯でした。

歯科医療により口腔内の健康維持から全身の健康をコントロールし健康寿命と平均寿命が一致している老いなき世界(イメージはみんながピンピンコロリの介護のない世界)を創造することは

1.患者様自身と関わる人達の幸せの創造

2.国の医療の削減

に繋がります。

そしてそんな世界の実現に私たちTCのカウンセリングは必要ではないかと考えます。

そう思えたのは今回の講義で鈴木先生に

「疾患を治すことを強要するより健康であることの欲求を高めるのが私たちの務めだ」という言葉を教わったことがきっかけです。

歯が悪くなる、未来を脅すカウンセリングをするのではなく、患者様の健康であることへの欲求を高め、デンタルIQを高めるカウンセリングを行うことで患者様の予防への意識、選択する治療が変わりその結果老いなき世界の創造に貢献できると確信しました。

そして患者様が年齢問わず心身ともに若々しく生涯自分自身に自信をもって幸せな人生を送っていただくことが私の望みです。

## 第2章 TCスクールを受講して今後の私に何ができるのか

「生涯カウンセリング」、今だけを見るのではなく過去を知り、未来をイメージしていただけるカウンセリングを行うことが今の私がまずやるべき事だと感じています。

今回のスクールの中で「人生の分岐点トーク」を教わりました。

教わった直後、臼歯部にブリッジが入っている40代男性K様にさっそく実践してみました。

もともとは他の部位のカリエス主訴でブリッジのところに何の支障も感じてはいらっしゃいませんでした。

インプラントカウンセリング中、沈黙で真剣に悩むK様の様子を見て、「今後の〇〇様の人生に関係する選択の場に今自分が関わっているんだ!」という責任とTCという職業の重要性をこれまで以上にひしひしと感じました。

そしてこれがTCの仕事なんだ、と改めて背筋が伸びました。

結果的にK様はブリッジからインプラントにやりかえるという選択をされました。

K様はブリッジの選択をした際に特にメリットデメリットなどの詳しい説明はない状況で費用が安いということで健康な隣在歯を削ってブリッジにされたということを非常に後悔されていました。そして今回情報を聞いた上でインプラントにせずにもし近い将来隣の歯がダメになってしまったら自分はまだ大きな後悔をすることになる、それは嫌だな、と思われたそうです。

その話を聞き改めて患者様をふるいにかけてしっかりと情報提供することがいかに患者様のためになるのか実感しました。

そしてK様のように知る権利のある情報を知らずに治療を受け後悔をする人を今後減らしていくためにも今現在鈴木先生が取り組まれているように、日本の歯科においてTCを増やし、普及させていくことは私もとても重要だと感じます。

私自身、今回鈴木先生の語るTCという職業の価値をきいたことでさらにこの仕事への自信が高まりました。

まだまだ私にできることは微力ですがTCという職業の価値、カウンセリングの重要性を対内的にも対外的にも発信していくことにチャレンジし、TCのいる歯科医院を求める患者様や、TCになるために採用に応募してこられる就活生が増えていく未来を実現していきたいです。

### 第3章 理想のTC像

私の理想のTC像は

一期一会を大切に、医院と患者様を結ぶTCになることです。

歯科医院が無数にある日本、私の働くエリアも歩けば歯科医院があるような激戦区です。

そんな中で患者様は当院を選びお越しにいただいている。

日常の中で患者様が当院に来てくださりカウンセリングをできる時間をいただけていることがいつしか当たり前になっていたように思います。

しかし、よくよく考えると凄い確率の中で毎日目の前の患者様と出会っています。

講義の中で患者様にカウンセリングで運命を感じてもらおうという話がありましたが、まず歯科医院と患者様、私と患者様が出会えていることが運命だと思いました。

私は自分の働く医院が大好きです。

働く医院、仲間、TCという仕事、提供している治療や技術、すべてに自信を持って働いています。

だからこそ私の大好きな医院と患者様との出会いを大切にしたいと思っています。

TCは医院と患者様の間にたって説明やカウンセリングを行う職種ですが、私はただ間に立つ、架け橋をつくるだけではなく「医院と患者様を結ぶ」仲人のようなTCでいたいです。

また、医院と患者様だけではなく、歯科医師、歯科衛生士、歯科助手、受付の各セクションをしっかりと結び付け患者様にとって安心できるチーム医療を提供します。

そして患者様からいただいている貴重なカウンセリングの時間の中で治療の大きさや金額に関わらず患者様の過去、現在、未来に向き合いながら患者様の未来が歯科治療によって好転するようなサポートができる存在でありたいです。

おわりに

このスクールの卒業後私の第3のTC人生が始まります。

自分がこれからどう成長していけるのか、院内でのTCの教育はこれでいいのか悩んでいた状況で今回スクールに参加してみて、鈴木先生をはじめ、先を歩んでいる経験豊富なTCの先輩方から学ぶもの得るものは想像以上でした。

学ぶこと、自ら情報を取りに行くことがいかに大切か実感致しました。

スクールで学んだことの実践はもちろんですが、いつまでも学びをやめない、立ち止まらない、そして進化し続けるTCでありたいです。

それがプロとして医療人として患者様に接する義務であり、この先の長いTC人生を楽しむコツではないかと思えます。

以上 3298文字